

大掃除の機会に転倒防止をしよう

●～家具類の転倒・落下・移動防止対策の推進～

年末、大掃除の季節です。今年の汚れをはらって、新しい年を迎えるための大掃除。普段は動かさない家具を動かす良い機会です。この機会にぜひ「家具転対策(かぐてんたいさく)」してみましょう！

家具転対策とは、地震の揺れでケガ等をしないために、家具や家電などを固定したり、落下防止をしたりする、「家具類の転倒・落下・移動防止対策」の略称です。

地震による家具転倒の発生は、ケガや避難障害、火災など様々な危険につながる可能性が大いにあります。

それらを防ぐ家具転対策は、地震からご自身や家族を守るために、今からでもすぐにできる「自助」の第一歩です。そして、家具転対策の効果でケガなどを防ぐことができれば、次に皆さんは、隣近所や地域の方々と協力し、お互いに助け合う「共助」の行動をとることが可能になります。

地震から大切な命を守るために、家具転対策を実施しましょう。



■ 家具転対策をしていないと起こる危険

① 火災

平成23年3月11日、東日本大震災において都内で発生した火災の多くが家具類の転倒・落下・移動によるものでした。

地震が起こると、家具類の転倒・落下・移動によって火災が発生することがあります。ストーブや水槽ヒーターなどの熱を発生する器具に家具類が転倒等をした場合だけでなく、ストーブ等に収容物が落下することでも火災が発生する危険があります。



東京都が公表した首都直下地震の被害想定では、都内で最大約800件もの火災が発生すると想定されています。

平成27年4月第21期火災予防審議会（地震対策部会）では「地震火災による人的被害の軽減方策」として、家具転対策が地震時の出火防止としても有効であり、火災による死者数の減少に大きく寄与することが示されました。火災による被害を減らすためにも、家具転対策は絶対に欠かせません。

<東日本大震災での出火例>

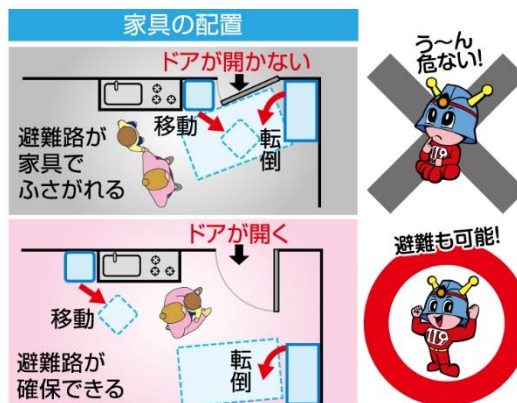
- 本棚が倒れ、本が電気ストーブに落下し出火
- 電気スタンドが倒れ、布団に接触し出火
- 落下物が、家電製品のスイッチに接触し、スイッチが入ることにより出火 など

② 避難障害

出入口付近に家具転対策を実施していない家具を配置してしまうと、転倒した家具が出口や扉を塞ぎ、逃げられなくなることがあります。

首都直下地震等の大規模地震が発生した場合、こうして閉じ込められてしまうと、そのまま長時間救出されない可能性があります。避難できない状況で、自宅や、近隣の住宅等で火災が発生すると、火災に巻き込まれる可能性が高く、非常に危険です。

避難障害を起こさないためには、左図のように出入口や避難経路に家具を置かないことや、家具を置く向きを工夫したりする家具転対策も非常に大切です。



■ どうやって家具転対策をしたらいいの？

家具転器具にはいくつかの種類があり、状況によって効果的な器具が異なります。下図を参考にさせていただくとイメージがしやすいと思います。

穴を空けたくない家具の場合、例えばタンスなどは、つっぱり棒とストッパー式（もしくはマット式）を組み合わせて設置することで、効果の大きいL型金具と同等の効果が得られます。それ以外にも、大きなホームセンターなどには、穴を開けることなく設置し、固定できる器具も多く販売されていますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

使用条件	器具の効果 ← 小 → 大				
単独使用	ストッパー式 マット式 	ポール式 	L型金具 (スライド式) ベルト式 チェーン式 	L型金具 (上向け取付け) プレート式 	L型金具 (下向け取付け)
組合せ使用	家具と天井に十分な強度が必要		家具、壁面や器具に十分な強度が必要		
			ポール式 + マット式 	ポール式 + ストッパー式 	